



2022年2月10日

各 位

会社名 鈴 茂 器 工 株 式 会 社  
代表者名 代表取締役社長 鈴木 美奈子  
(コード番号：6405 東証 JASDAQ)  
問合せ先 執行役員 企画本部長 秋田 一徳  
(TEL. 03-3993-1396)

## 業績予想及び期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社は、2021年5月14日付「2021年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」で公表いたしました2022年3月期(2021年4月1日～2022年3月31日)の通期業績予想及び期末配当予想を下記のとおり修正いたしましたので、お知らせいたします。

### 記

#### 1. 業績予想の修正について

##### (1) 2022年3月期通期連結業績予想数値の修正(2021年4月1日～2022年3月31日)

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	10,000	930	930	630	97.76
今回修正予想 (B)	11,770	1,700	1,710	1,150	178.30
増減額 (B-A)	1,770	770	780	520	—
増減率 (%)	17.7	82.8	83.9	82.5	—
(参考) 前期実績 (2021年3月期)	9,486	919	920	683	105.76

##### (2) 修正の理由

2022年3月期の業績予想を算定した2021年5月14日時点の事業環境の見通しは、インバウンド需要の減少や、外食・小売業における企業活動の制限等の影響が引き続き想定されたものの、巣ごもり需要の継続や、テイクアウトやデリバリーの拡大、非接触ニーズの高まりによる機械化の進展といった動きが、さらに広がっていくものと見込んでおり、そのような需要を取り込むことで、業績は堅調に推移すると見込んでおりました。

足元の事業環境は、第2四半期から半導体や部材の供給不足による生産活動への影響を受けておりますが、事業環境の変化に伴う外食・小売業における機械化や省人化に対する投資意欲は非常に高く、当

社製品需要は想定を上回る水準で推移しております。

2022年3月期通期の国内の売上高は、大手回転寿司チェーンを中心に寿司ロボットの需要が順調に推移したほか、衛生意識やフードロスへの関心の高まりを背景に、ホテル、旅館、社員食堂といった新たな顧客層からのご飯盛付けロボット（Fuwarica）の需要が広がり、概ね計画通りに推移しております。

海外の売上高は、経済活動の再開に伴い人手不足が深刻化したことから、外食・小売業において、人の労働力を機械へ置き換える機械化の動きが一気に加速し、北米・欧州を中心に、寿司ロボットの需要が非常に高く、想定を上回る水準で推移しております。

このような動向を踏まえ、2022年3月期通期の連結売上高が前回予想を上回る見通しとなりました。

利益面につきましても、連結売上高が前回予想を上回る見通しとなったことにより、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益がいずれも前回予想を上回る見通しとなりました。

## 2. 期末配当予想の修正について

### (1) 修正の内容

	年間配当金（円）		
	第2四半期末	期 末	合 計
	円 銭	円 銭	円 銭
前 回 予 想	—	20.00	20.00
今 回 修 正 予 想	—	40.00	40.00
当 期 実 績	0.00	—	—
(参考) 前期実績 (2021年3月期)	0.00	20.00	20.00

### (2) 修正の理由

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しており、安定的な配当を基本としながら、財務状況や今後の事業展開等を総合的に勘案し、適正な利益配分に努めております。

このような方針のもと、2022年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益が前回予想を大きく上回り、過去最高益を更新する見通しとなったことを勘案し、2022年3月期の期末配当予想を直近の配当予想から1株につき20円増配の40円に予想を修正いたしました。

以上

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、不確実な要素を含んでおります。実際の業績等は上記予想数値と異なる場合があります。